



めざせ! 南十字星

笑顔があふれ、しあわせを感じられる学校

学校便り

令和6年5月号

ヨハネスブルグ日本人学校

読書の素晴らしさや大切さは!? 全校朝会にて

本校の図書室には、約7千冊の蔵書があり、子どもたちは、休み時間に本を読んだり、貸し出しをしたりするなど、憩いの場となっています。毎年、日本から定期的に購入している本もありますが、日本人会の会員の方々から頂いた寄贈本も多くあります。本に親しむことは、子供たちにとって大変有益とされます。



今年度の最初の全校朝会で、本にできるだけ触れてほしい思いから読書の大切さや良さについて話をしました。主に、3つの良さに絞って伝えた内容を紹介します。



1つ目は、脳の機能が活性化、つまり、よく働くようになります。

読書は、本の種類や難しさに関係なく、頭の中の脳の全てを使う作業です。読書こそは最高の脳トレーニングといえますね。

2つ目は、ストレスを減らすことができます。

ある研究で、ストレスが減らせそうなこと、例えば、お茶を飲んだり、テレビゲームをしたり、散歩をしたりして、それぞれのストレスがどのくらい減ったかを調べたそうです。その結果、読書がトップだそうです。

3つ目は、人とのコミュニケーション力が上達します。

読書をすることでコミュニケーション能力も上がるという研究があります。読書で想像したりストーリーを予想したりすることは、人を思いやる気持ちや他の人がどんなことを考えているのかを理解する力が高まるということです。素晴らしい効果だと思いませんか。

日本人学校では、毎日、登校から委員会活動や朝運動などの活動が始まる前に、朝読書の時間を設定しています。

読書によって集中力が付き、忍耐力が養われると言われます。本を読むことは文字を追いつけるため、漫画やテレビなどと比較するとかなりの集中力が求められます。

また、本にはまだ知らない表現が出てきますが、意味がわからなくても前後関係から推測できます。小学生から多くの単語や漢字に触れることで、読解力が身に付き、語彙力も増え、毎日の学びに活かされながら蓄積される長所があります。

さらに、読書は文字を読み進めながら、情景を想像したり、登場人物の心情を理解したりしていきます。写真や絵がない本を読むことは、自分の想像力を最大限に働かせるので、脳も活性化し、読書が習慣化すると、感情移入が得意になり読解力が付くので国語の学力にも結び付きます。



ぜひ、家族と一緒に読書をしたり、同じ本を読んで感想を交換し合ったりする楽しみ方もおすすめです。今後もわずかな時間であっても、読書が毎日の生活の一部となるように読書を奨励していきます。

なお、学校の蔵書の維持管理は、「図書ボランティア」の方々のお力添えを頂いています。子供たちの読書環境をさらに整えるためにも、広く日本人会の皆様に、図書ボランティアへのご参加をよろしくお願い致します。既に日本人会事務局より募集のご案内がなされていますので、御協力をよろしくお願い致します。また、ご家族の皆様にも、図書ボランティアを募集していることをお伝えいただけましたら幸いです。

日本人学校の図書室は、日本人会の皆様は、どなたもご利用できますので、是非、ご活用ください。

